



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |                                                                                   |
|------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| Title            | 一般社會教科書の分析研究                                                                      |
| Author(s)        | 高橋, 正美                                                                            |
| Citation         | 北海道大學教育學部紀要, 3, 119-128                                                           |
| Issue Date       | 1955-03                                                                           |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/28983">https://hdl.handle.net/2115/28983</a> |
| Type             | departmental bulletin paper                                                       |
| File Information | 3_P119-128.pdf                                                                    |



# 一般社会教科書の分析研究

高 橋 正 美

## 第1章 分析の目的

現在の検定教科書制度にあつて、教科書内容が学習指導要領によつて、制約を受けている事は云う迄もない。学校教育法施行規則第25条、55条、57条に於て、小・中・高を通じて学習指導要領に準拠した教科書を使用しなければならない事が明記されている。

然し、教科書がどれだけ学習指導要領に準拠しなければならないか。云いかえれば、学習指導要領がどれだけ教科書を制約しているかは問題である。現場では、学習指導要領によつて教科書が殆ど規定されているとの声が圧倒的である。又、文部省自身も、一応教科書編集の自由な幅を認めており乍らも、曖昧な態度を持たないでもない。例えば中学校、高等学校社会科の検定基準をみると、「一般社会科の内容の教科書は、学習指導要領に示されている諸目標を達成するために出来るだけ適切な基本的事実や考え方が盛られている事が必要」であるが、「内容の範囲は、学習指導要領に示されているものを必ずしも全部おおう必要はなく、これ以外に出てはならないこともない。」(筆者傍点)の極めて曖昧な表現をしている。一方、検定制度に於ては、国定のそれと異り、同一科目について、多くの種類の教科書が発行されているから、各教科書出版社の編集者の相違によつて、学習指導要領の制約の程度が異なる事が予想される。従つて、かかる出版社間の学習指導要領制約の程度と、教材の取上げ方を中心に検討してみよう。この問題を検討するために、政治的、社会的状況の直接反映しやすい一般社会科をえらび、特に、高等学校一般社会教科書6種類10冊を全部取上げ分析を試みた。

| 教科書番号   | 教科書名         | 著 作 者                  | 発 行 所    | 発行年度 |
|---------|--------------|------------------------|----------|------|
| 高社 1012 | 一般社会 (上)     | 川 口 央                  | 好 学 社    | 昭 29 |
| " 1013  | " (下)        | "                      | "        | "    |
| " 1018  | 一般社会 (上)     | 宮 原 誠 一                | 実教出版株式会社 | 昭 28 |
| " 1019  | " (下)        | "                      | "        | "    |
| " 1020  | 最新一般社会 (上)   | 井 手 文 雄                | 実業之日本社   | 昭 28 |
| " 1021  | " (下)        | "                      | "        | "    |
| " 1023  | 日本社会の基本問題(上) | 金 森 徳 次 郎              | 教育図書株式会社 | 昭 27 |
| " 1024  | " (下)        | "                      | "        | "    |
| " 1025  | 社会生活の基礎      | 岡 田 謙 吉                | 中教出版株式会社 | 昭 29 |
| " 1026  | 一般社会         | 美 濃 部 亮 吉<br>小 山 文 太 郎 | 清 水 書 院  | 昭 29 |

## 第2章 研究資料の蒐集と検討

### 第1節 資料の蒐集と分類

教科書の分析に当つて必要とされるのは、教科書に関する従来の研究資料の検討である。

第1章で述べた研究の目的に沿って、特に教科書内容に関する研究資料の蒐集に当つた。

限られた範囲ではあるが、蒐集せられた資料を検討するに当つて、研究課題による一応の分類を行つた。資料の分類に当つて、E. W. Dolch.; J. A. Clement及び仲新氏の分類を参照した。

### 1. 教育課程における教科書の研究

1. 波多野 完治：女学校用育児教科書の批判調査 教育第1巻 昭8.4 P125
2. 科学教育部会：新算術書四年上巻に関する研究(1) 教育第6巻上 昭13 P1013
3. 小林 鶴蔵：現行小学理科書の実証的批判 教育第7巻上 昭14 P813
4. 浦 辺 史：中学家庭科教科書の検討 教育第3巻 昭24 P42
5. 日本ユネスコ国内委員会：ユネスコの見地よりする教科書の調査報告書 昭27
6. 福岡市立教育研究所：社会科教科書における歴史的内容(中学校) 昭28
7. 北海道後志教育研究所職業家庭科学習指導法研究委員会：教科書の比較研究から考察される学習指導法の傾向について 昭29

### 2. 教科書の評価

8. 茨城県教育研究所：教科書の分析研究Ⅰ 教育研究所紀要 昭24
9. 茨城県教育研究所：教科書の分析研究Ⅱ 教育研究所紀要 昭24
10. 兵庫県教育研究所：教科書の研究(小学校一國, 社, 算, 理, 音) 昭26
11. 山形県教育研究所：昭和28年度小学校, 中学校教科書の研究 昭27
12. 北海道空知教育研究所：教科書の採択に関する基礎資料, 研究紀要第Ⅱ号 昭29

### 3. 教科書批判

13. 城戸晴太郎(代表者)：新「小学国語読本」の批判 教育第1巻 昭8.4 P48
14. 竹 田 清：中学校における数学教科及び数学教科書批判 教育第1巻 昭8.7 P502
15. 安部能成(代表者)：小学国語読本巻二の批判 教育第1巻 昭8.9 P861
16. 志 田 不動磨：中学校における東洋史教科書批判 教育第1巻 昭8.6 P431
17. 増 田 貫 一：新小学国語読本検討 教育第7巻上 昭14.3 P395
18. 日 高 昂：青年学校教科書に就いて 教育第10巻 昭17.9 P228
19. 井 上 清：文部省著作「民主主義」上巻について 歴史通論三一書房 昭25 P131
20. 井 上 清：文部省著作「くにのあゆみ」批判 歴史通論三一書房 昭25 P181
21. むさしの児童文化研究会：社会科教科書の総ひはん 日本教育新聞 昭28.(6.27, 30, 7.2)
22. 朝 日 新 聞 社：「社会科教科書批判」週間朝日 昭29.7
23. 広 橋 一 男：高等学校国語教科書の批判 日本文学 昭28.2.3月合併号

### 4. 学力評価のための教科書分析

24. 東京都杉並区済美教育研究所：社会科テスト「政治経済用語はどれだけ理解されているか」 日本教育新聞 昭28.5.28, 30
- 日本教育学会学力調査委員会：中学校生徒の基礎学力 東京大学出版会 昭29 P13

### 5. 教科書の歴史的研究

26. 岡 邦 雄：教科書発達史のルネッサンス—明治中期の理科教科書 教育第2巻下 昭9.3 P1307
27. 岡 邦 雄：明治初年の理科教科書 教育第2巻上 昭9.2 P226
28. 仲 新：近代教科書の成立 講談社 昭24
29. 石 川 謙：庭訓往来についての研究 金子書房 昭25
30. 海 後 宗 臣：修身科教材の変遷：教育第2巻上 昭9.3 P393

### 6. 外国教科書の研究

32. 東京文理科大学教育学会：アメリカ教科書の研究 金子書房 昭23
32. 佐々木 秀一：世界の国語読本一瞥教育第1巻 昭8.4 P83

33. 菅 田 梅 田 郎：世界の算術教育 教育第1巻 昭 8. 7

34. 齋 藤 秋 男：新中国の国語教科書に学ぼう イサワ教育コンファ会 昭28

以上、34種の資料は一応通読検討を試みたものであるが、なお未発見の資料も数多くあると思われる。通読の出来なかつた資料は次の文献でその大要を知つた。

阿 部 重 孝：学科課程論 教育科学 第10冊

仲 新：教科書 教育研究辞典 金子書房

国立教育研究所論：明治以降教育文献総目録 印刷庁 昭25

E. W. Dolch, J. A. Clement ; Textbooks (Monroe; Encyclopedia of Educational Research, Macmillan, P 1479)

## 第2節 資料における研究方法の検討

第1節の分類に従つて検討すれば次の如くである。

1. 教育課程における教科書の占める位置を重視し、教科書内容を分析し、批判している。方法については、中には単に分析表を示しているのみで目的の曖昧な資料もある。代表的な資料として、家庭科の根本目的が教科書にどのように生かされているかについて、教材の比重、内容の質的批判、統計資料の3段階にわたつて検討した資料4をあげる事が出来る。

2. 教科書の採択が教育委員会によつて行われることから、そのために各地域において、教師、委員会、研究所等による教科書の評価が多く試みられている。方法としては、文部省の検定基準の項目に準じているものも又応用しているものが多い。

3. 教科書批判は本格的な研究として与えられないが、我が国教科書研究の過渡的所産として資料を検討した。批判には立場がなければならないが、資料13に見られるが如き、同一文例に対する異つた見解が生ずる。基準を設けて批判を行つているものには資料21がある。全般的に質的批判に限られている。

4. 学力評価のための教科書分析はその方法として、資料24は用語を調査カードによつて、資料25は分析表によつて行っている。

5. 多く叙述にとどまつているが、資料29における、石川謙博士の施註、繪抄についてグラフ、表による統計的考察は特異なものとしてあげることができる。

6. 外国教科書の研究として、4種の資料が蒐集されているが、資料32, 33はいずれも紹介程度に止まつている。方法としては、31, 34に於て、質的批判、量的方法が試みられている。

以上検討の結果、教科書研究の方法として、教科書内容の全体的把握をなすためには、質的方法、量的方法の併用が考えられ、本研究の目的に沿う方法としては、分析表を中心とし、それに質的方法を加えて行く方法が妥当であると確認された。

## 第3章 分析の方法

第1章で述べた研究の目的に沿つて、又第2章の方法の検討の結果から、分析に当つては客観的に数値であらわす方法でもつて、教科書内容について学習指導要領内容とそれ以外の内容（教科書内容と呼ぶ）を分けて検討し、夫々の教材の取上げ方の傾向の相違から教科書における学習指導要

領の制約程度の各社による相違を検討した。分析に当つては、教科書内容構成要素として項目、要語、図表の夫々について行い、それらを総括して、各種類教科書の分析結果の差違を明らかにした。

なお、一般社会教科書の単元の構成は、すでに学習指導要領によつて第1単元「民主的生活」、第2単元「労働問題の改善」、第3単元「村の生産と生活の向上」、第4単元「経済のしくみ」、第5単元「生活と文化」となっている。

註 単元主題は要旨、単元の配列について中教のみ配列が異つているのを、便宜上他社と同様な排列に従つて考察した。

### 1. 項目について

「学習指導要領項目」として、学習指導要領に示されている「内容」と「学習活動の例」から、大項目、中項目について項目の一応の範囲を決定し、それ以外の内容（教科書内容）との割合をみた。

### 2. 要語について

要語とは、学習指導要領に示された用語、術語を含むもので、定義されている語、説明されている語である。このように要語を規定し、次に示すような調査カードを作製した。

調 査 カ ー ド

|          |     |       |                          |   |
|----------|-----|-------|--------------------------|---|
| 政治・経済・社会 | 発行所 | 高・中・小 | 1.2.3.4.5.6. 総・歴・地・政・上・下 | 頁 |
| 用 語      | 小項目 |       | 中項目                      |   |
| 原 文      |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
|          |     |       |                          |   |
| 備 考      |     |       |                          |   |

教科書について、1頁ずつ読み乍ら要語を全部書出し、調査カードに示されている項目に従つて記入して行つた。記入に際しては、1要語1枚を原則とした。カードは単元別に分類箱に入れ、各単元の項目類型を用いて更に分類し、ここで要語数を集計した後、各社について、単元別に共通の要語を抽出した。抽出した要語は整理カードに記入した。整理カードは、要語名、要語数を記入するようになっており、5社以下の共通の要語については、要語を使用していない、又説明していない発行所名をも記入するようにした。この整理カードから共通な要語の中で、学習指導要領に示されている要語を集計した。更に共通な要語について、叙述の傾向を整理カードによつて調査カードから抽出し検討を加えた。共通な要語以外のもの、独自の要語については、単元別、発行所別に分類し、要語数をみた。

### 3. 図表について

ここで図表とは、図表、統計、グラフ、地図写真、さし絵一般を指している。然し、これら6種は学習効果の上から同じものではない。図表、統計、グラフ、地図は児童生徒に対して「理解と技能の取得を要請するもの」、さし絵、写真は「感覚に訴え、鑑賞させるもの」であり、前者をA、後者をBとし、使用数を集計し、傾向をみた。

## 第4章 分析結果の全般的考察

### 第1節 学習指導要領内容の分析結果の考察

全単元について、学習指導要領項目と教科書項目の割合をみたのが第1表である。

右表から学習指導要領にあげてある項目の割合の最も多いものとして、実日の92.0%、最も少いものとして実教の63.0%をあげる事が出来る。更に又、実日と実教の間を

第1表

| 項目     | 発行所 | 実教            | 教図            | 好学            | 清水            | 実日            | 中教            |
|--------|-----|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 学習指導要領 |     | 203<br>(63.0) | 207<br>(69.0) | 169<br>(68.4) | 278<br>(80.3) | 301<br>(92.0) | 267<br>(86.4) |
| 教科書    |     | 117<br>(37.0) | 93<br>(31.0)  | 78<br>(31.6)  | 68<br>(19.7)  | 26<br>(8.0)   | 42<br>(13.6)  |

多いものの順に並べてみると、清水の80.3%と好学の68.4%の間に11.9%の大きな差のある事がわかる。今この清水、好学の間を境として、学習指導要領にあげてある項目の多いグループ(第1グループ)、学習指導要領にあげてある項目の少いグループ(第2グループ)とに分けると、第1グループに、実日、中教、清水、第2グループに実教、好学、教図を入れる事が出来る。学習指導要領にあげてある項目以外の項目(教科書項目)については、学習指導要領にあげてある項目の場合と逆の関係にあることは云う迄もない。この第1グループと第2グループとの関係を更に要語についてみると第2表の如くなる。第2表は、共通の要語について、学習指導要領にあげてある要語と、そ以外の要語とに分け考察したものである。

第2表

| 発行所       | 実教  | 教図  | 好学  | 清水  | 実日  | 中教  |
|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 共通要語      |     |     |     |     |     |     |
| 学習指導要領の要語 | 57  | 51  | 56  | 55  | 64  | 52  |
| それ以外の要語   | 155 | 154 | 160 | 158 | 187 | 155 |
| 計         | 213 | 205 | 216 | 213 | 251 | 217 |

左表から、学習指導要領にあげてある要語の最も多いものが実日、最も少いものとして教図をあげることが出来る。今学習指導要領にあげてある要語の多い順に書いてみると、実日、中教、実教、好学、清水、

教図の順となる。これを項目において行つた分析結果と比較すれば、実教と清水以外、第1グループ第2グループに夫々実日、中教また教図、好学を入れることが出来る。

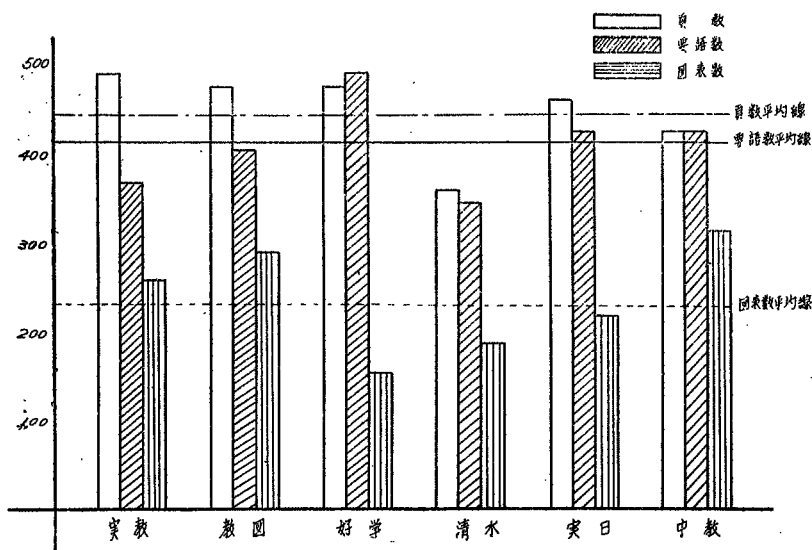
すなわち学習指導要領内容を項目、要語に於てみるならば、(特に項目を中心に検討するならば)学習指導要領内容の多いグループとして、実日、中教、清水、少いグループとして教図、好学、実教をあげることが出来る。

### 第2節 教科書内容の分析結果の考察

教科書内容を検討するに当つて、量的方法—頁数、要語数、図表数—と質的方法—要語説明文の比較—の2つの方法によつて夫々内容の豊富さと、叙述の傾向を考察しよう。

第1図について、頁数、要語数、図表数の平均線を上廻る場合を(+)とし、下廻る場合を(-)として消長関係をみると次のようになる。

第 1 図



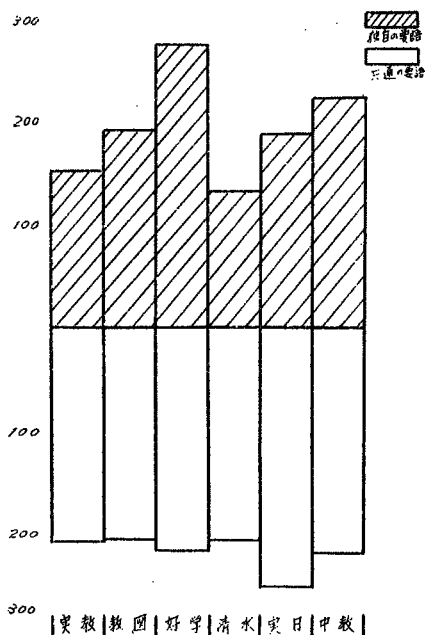
第 4 表

| 発行所 | 実教 | 教図 | 好学 | 清水 | 実日 | 中教 |
|-----|----|----|----|----|----|----|
| 頁数  | +  | +  | +  | -  | +  | -  |
| 要語数 | -  | -  | +  | -  | +  | +  |
| 図表数 | +  | +  | -  | -  | -  | +  |

左表から消長関係において異なる4つの型を示すことができる。

1. 〔++〕: 実教, 教図
2. 〔++〕: 好学, 実日
3. 〔--〕: 中教
4. 〔--〕: 清水

第 2 図



すなわち、第3型、第4型の対照的な内容に注意する必要があるが、特に第2型における好学の要語と図表における著しい偏りは何を示すものであろうか、この点を押えて、更に検討を進めてみる。要語を各社間共通の要語と一社独自の要語とに分け、夫々の要語数をみると第2図の如くなる。

第2図を見ると、共通の要語、すなわち指導要領にはあげてないが、編集者が「これだけはのせるべきである」と考えた要語は、全般に著しい差は見られないが、独自の要語についてはその要語数において好学が大きく第1位を占めている。

更に要語について叙述の傾向を考察しよう。今、叙述の傾向を容易に察知するために、中教を取上げ好学との対比において検討してみる。

#### 例 1. 「インフレーション」

中教—「インフレーションとは、通貨があまりに

増発されて、そのねうちが下り、物価があまりに高くなることである。……けれども国家が使うかねがひじょうにふえて、とても税金だけでは足りなくなつた時はどうするか。……国家はその時、その赤字をうめるために公債を発行する。……けれども公債の発行高が多くなつて、民間で買わないときはどうするか、この時とる方法が、日本銀行の公債引受である。しかし民間に売出すことができなければ、通貨は民間にふえたままである。……こうしたことが続けば、通貨の発行高はいよいよふえ、通貨があふれ、人々の購売力が盛んになるから、物価は上る一方である。」

好学「物価水準は、普通、貨幣数量の増加につれて騰貴し、その減少につれて低落する。たとえば政府が戦争用物資を購入するために公債を発行し、その公債を日本銀行に引受けしめ、日本銀行から公債発行額に相当する日本銀行券を受け取るならば、それだけ貨幣数量が増加し、このような方法を何回とくり返しているうちに、物価は騰貴しはじめ、ついにこれが極端にまで進行して、国家経済が攪乱されることがある。かかる現象をインフレーションと呼ぶ。」

#### 例 2.「教育委員会」

中教「教育を運営していくには、社会の要求をいちばん敏感に反映させる必要がある。民主的な社会はそのために、公開の選挙で選ばれた議員が、会議を開いて、多数決によつて方針をきめるという方法をとる。これが教育委員会の制度である。」

好学「教育委員会は、中央行政機関から独立して、教育に関して多くの政策決定を行い得るのであり、法律で定められた範囲では、中央の指揮監督を受けることなく独自の権限を行い得る。」

以上、好学の教科書内容の特色が明らかにされたが、ここに対比した中教が好学と対照的な存在である事は容易に察知される。

### 第3節 分析結果から考察される教科書の相違について

第1節に於ては、学習指導要領内容、第2節に於ては、教科書内容を夫々考察したが、最後に、この二つの内容の相互関係から、教科書の相違を検討してみる。

実教一6社間で最も学習指導要領内容の制約を受けていない。要語は少ないが、頁数が最も多く図表も多い。

教図一学習指導要領内容は少ない（学習指導要領にある要語は最も少い）要語は少ないが、頁数が多く、図表は中教について多い。

好学一教図とほぼ同程度に於て学習指導要領内容は少ない。頁数は多く、要語は最も多い。

図表は最も少ない。叙述の傾向は中教と対照的である。要語数と図表数に甚しい偏りをみせている。内容は最も多く独自性を有する。

清水一学習指導要領の内容が多く、最も独立性が少ない、頁数、図表共に少ない。

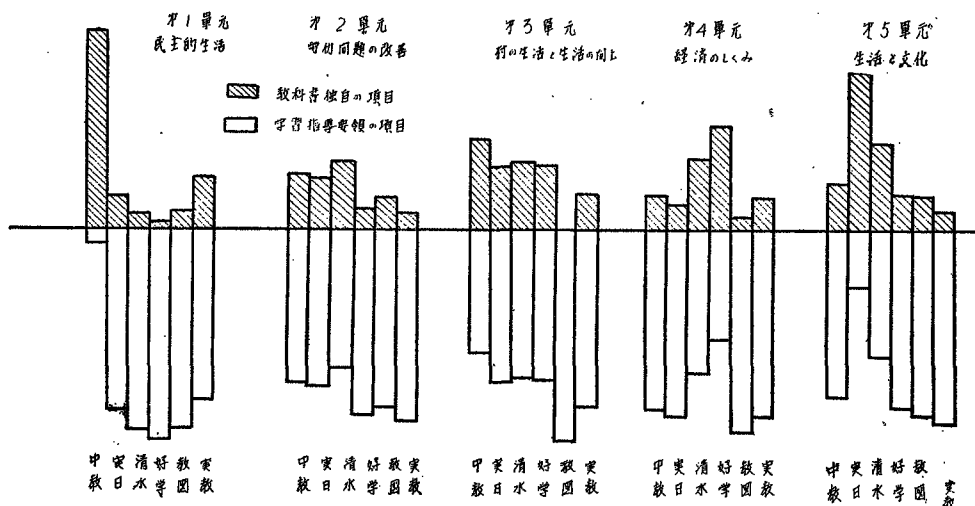
実日一学習指導要領に最も多く準拠している教科書である。頁数は多いが、要語、図表は少ない。各教科書間共通の内容が最も多く、独自の内容は少ない。学習指導要領の内容ををそのまま盛り上げている。

中教一学習指導要領の内容がかなり多い。頁数、要語数が多く、図表は最も多い。叙述の傾向は6社中最も平易である。学習指導要領の内容を豊富に均等に盛り上げているものとして好学と対照的である。

## 第5章 分析結果の各単元別考察

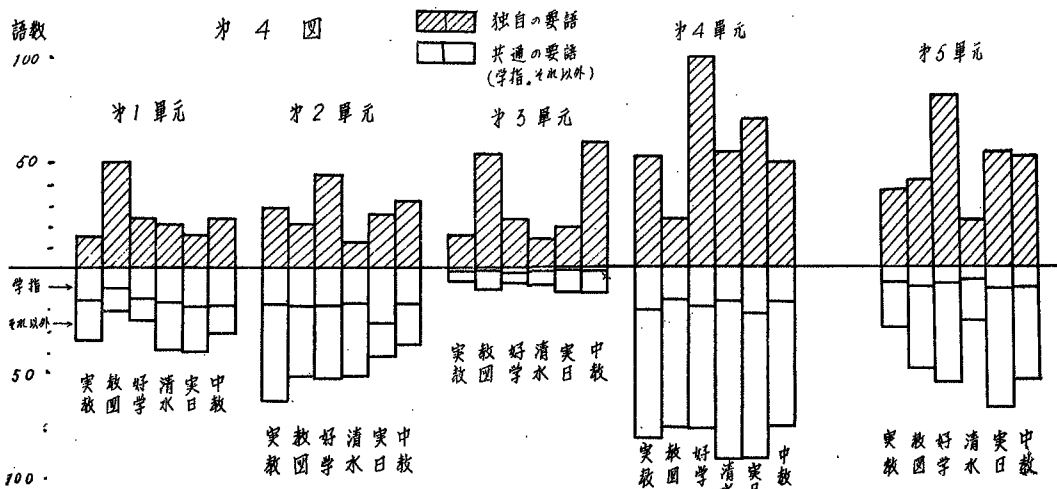
項目について、学習指導要領項目の割合を第1単元から第5単元まで見たのが下図である。

第3図



上図を見てもわかる通り、第1. 2. 3単元について各社間著しい相違は見られないが、第1単元と第5単元において、前者は、教図と中教の間において、後者は実教と清水の間に著しい差違を見ることが出来る。

又、要語について見ると第4図の示す如くである。すなわち、第4単元の要語が最も多く、(独



自、共通共) 第1単元、第3単元は少ない。学習指導要領に示された要語は、第1単元、第2単元が割合に多い。

要語数については、第2. 4. 5単元について、好学が第1位を占めている。

最後に、図表について、A (図表, 統計, グラフ, 地図), B (さし絵, 写真) に分け両者の関係を第5図によつて検討してみる。

図表は第3単元 (村の生産と生活の向上) 第4単元 (経済のしくみ) に多い。A, Bについて見

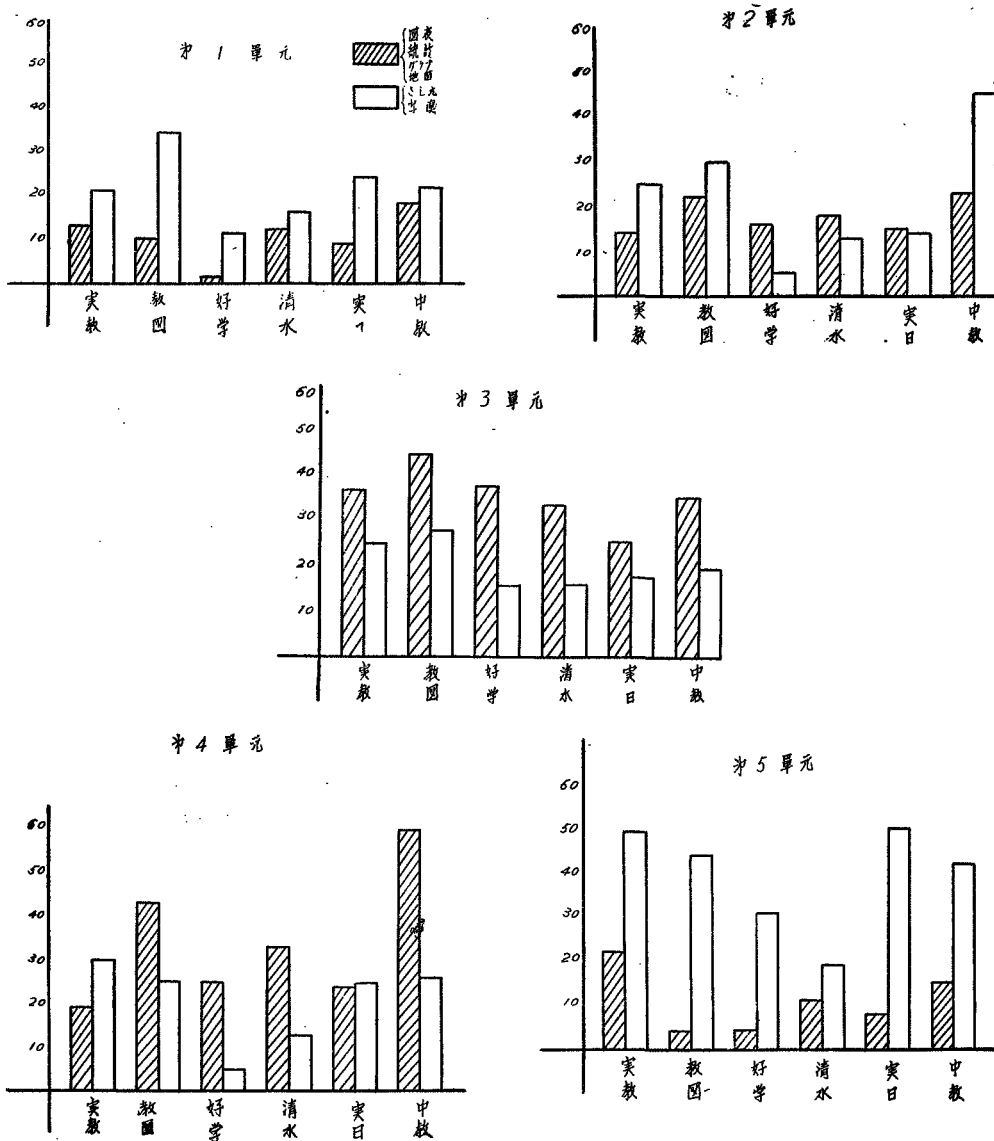
ると、第1～5単元について、3つの型がある。

A 型 (Aが各社共多い) 第3単元

B 型 (Bが各社共多い) 第1.5単元

混合型 (各社によつて異なる) 第2.4単元

第 5 図



以上、各単元分析結果の考察を試みたのであるが、全般的に、各単元の特徴は、単元の有する教材によつて表われてくるものと考えられる。

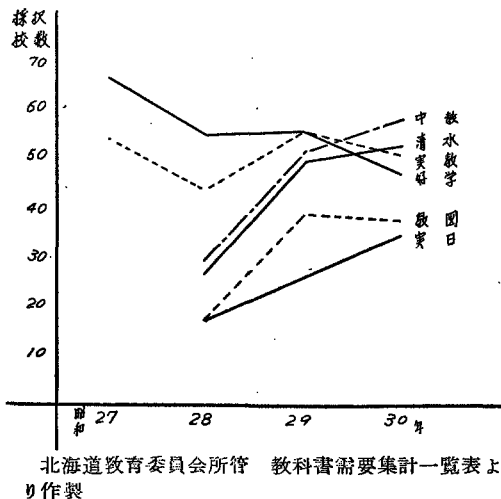
## 第 6 章 分析結果から考察される問題

第4章で考察された教科書間の差違が、教科書を採択した学校の学習指導の傾向の差違を予想す

るものであるとするならば、教科書採択の傾向を知る事は意味ある事である。

かかる意図によつて、北海道における全高等学校の「一般社会」教科書採択数を昭和27年から昭和30年まで見たのが第6図である。

第 6 図



表によつて示されるように、採択数にかなり変化がみられる。昭和27年度においては、改訂教科書としては、実教、好学の2社のみで、昭和28年度からは、中教、清水、教図、実日が参加している。28年度から29年にかけて全般に採択数の上昇を見せているが、29年度から30年度にかけては、上昇しているものとしては、中教、清水、実日の3社をあげる事が出来る。それに反して下降しているものには、実教、好学、教図の3社がある。今、上表によつて得られる結果と、分析結果の全般的考察の結果を併わせてみると、上昇している中教、清

水、実日は比較的学习指導要領内容の多いものである。すなわち、学习指導要領の制約の程度の強い教科書が採択されている事がこの図から見る事ができる。特に1位の中教は、学习指導要領内容を豊富に盛り上げたものであり、平易な教科書である。昭和29年度と30年度の採択数におけるかかる変化と分析結果との関係については、早急に結論を出すことは問題であろう。

## 後

## 記

この研究は、昭和30年度をもつて、第3年目を迎える本学部「教育段階における高等学校の地位の研究」に関する総合研究の一部としていろいろ研究上の便宜を得ました。

御指導をいただきました城戸幡太郎先生、黒田孝郎先生に厚く御禮申し上げます。なお資料の蒐集に当つては、北海道教育研究所、北海道教育委員会、北海道教科書配給所の御援助を得ました。

### 3. About the Problems of Female-education.

By Kimiko Narushima

In my study about the problems of female-education in co-education institution, I have adopted the method of producing conclusions by measurement, because I have wished to grasp the direction and aims in female-education by this method.

This is only a summary of my research concerning the 357 school-girls of both the West-High School and the North High School here in Sapporo, Hokkaido, Japan.

### 4. Physical Training of Girl-students.

By Sumio Minakawa

I measured the fundamental physical strength of the high school students in Sorachi province and examined these results with the average of the whole country. I found that they were inferior in the fundamental physical strength to that of the whole country.

I think that this is the important thing in the guidance of the physical education in this province, their causes must be inquired into, and the special methods of the physical education must be tried on them.

I believe that this inquiry must give us the important data as we constitute the curriculum of the physical education.

### 5. Analytical Study of "General Study" in High-school Textbook.

By Masami Takahashi

Under the system of the authorized textbook, the present day textbook must be based on the course of Study.

But it is a problem how it must be based on.

Textbooks, approved by the Educational Department, are published by many publishing companies of textbooks.

Therefore it goes without saying that contents of each textbook differ from each other just as each editorial staff of publishing companies differ. Because of this it is assumed that the extent of control of the Course of Study for textbooks must differ. To inquire into such difference of textbooks concerning this matter. I selected the text books of

“General study” used in high schools, because they are most likely to reflect the political and social conditions, and analysed 10 copies, 6 sorts, of them in all.